

試料・情報利用研究計画書(概要)					
研究番号	2025-1003	利用形態	共同研究		
研究題目	不妊治療と子どもの発達特性との関連に関する国際メタアナリシス			研究期間	2025年4月 ～2026年3月
主たる研究機関	東北大学東北メディカル・メガバンク機構		責任者 氏名・職	栗山 進一	教授
分担研究機関	ブリストル大学		責任者 氏名・職	Deborah Lawlor	Professor
研究目的と意義	三世代コホート調査では過去に、母の不妊治療と児の3歳半時点での発達遅延との関連がなかったことを明らかにしている。国際的かつより大規模な人々を対象として結果を示していくことは、安心して不妊治療を選択していくために有意義である。本研究の目的は、ブリストル大学が主体となって実施する国際統合解析に参加し、不妊治療と乳幼児期から青年期までの各年齢における発達特性との関連を検討することである。				
研究計画概要	本研究は三世代コホート調査参加者を対象とする。不妊治療で生まれた児と不妊治療を用いずに生まれた児において、調査票で収集しているSDQの尺度を用いて児の発達特性を年齢毎に比較する。三世代コホート調査では児が10歳に達しているため、10歳までの情報を用いる。さらに、不妊治療は生殖補助医療の有無や体外受精・顕微授精、新鮮胚移植・凍結胚移植といった種類によって、児の発達特性との関連性が異なるかどうかを検討する。性別によるサブグループ解析も実施する。また、親の不妊症の遺伝的リスクスコアと児の発達特性との関連を検討し、不妊治療と児の発達特性との関連に親の不妊症の遺伝的リスクスコアを調整した解析も実施する。親の遺伝的リスクスコアを用いる検討は、三世代コホート調査に参加した父の情報も使用する。 解析結果はブリストル大学に送付し、ブリストル大学にて他の参加機関における研究結果とともにメタアナリシスを実施する。				
利用試料・情報	対象:東北メディカル・メガバンク計画三世代コホート調査参加の父、母、児 約23,000組 試料:なし 情報:基本属性、調査票、カルテ情報、ゲノム情報(アレイによるジェノタイピング、インピュテーション済みの情報)				
期待される成果	本研究を通して不妊治療と健康との関連が検討されることで、人々がより安心して不妊治療を受けられるような基盤づくりが促進されることが期待される。				
倫理審査等の経過	2025年4月 東北大学東北メディカル・メガバンク機構倫理審査委員会				
倫理面、セキュリティ面の配慮	本研究では個人のゲノム情報を含むコホート調査で収集された情報を扱うが、情報の取得からGWAS解析までを東北メディカル・メガバンク機構のスーパーコンピュータ内で行い、情報漏えい防止に努める。また、共同研究先であるブリストル大学へは解析結果のみを提供するため、個人が特定される情報は含まれない。				
その他特記事項	この研究は運営費交付金により実施します。				
	*公開日 2025年4月24日				